

や否や吾人は之を疑はざるを得ぬ。且廢物といふ以上は何れも使用済のものである。従つて清潔なるものとは云へぬ。時には危険なるものもあらんかと思ふ。若し廢物を子供に與ふとせば此點は如何に處す可きか、或は新なる玩具を買ふ以上は手數と費用を要することなきか之大に研究を要する問題である、尤も、吾人とても廢物利用と云ふことをして居ない譯ではない。紙の切れ端、木片の數々は勿論のこと野菜や、穀類の残りものなど何れも夫々利用の通があつて幼児の遊戯に一段の光輝を添へるものではあるが、今夫人の云はるゝ様には有らゆる廢物の中より玩具を拱扶せんと云ふには玩具の種類を豊富ならしむる必要上勢、危険なるもの不潔なるものをも採集するの止む可からざるものがあらうと思ふ。其時に當つて之を如何に處置す可きは大に考慮す可き問題である。要するに家庭の廢物は玩具として利用す可しと云ふことは結構な主張ではあるが、之を以て他一切の玩具を廢止せよと云ふことは少し云ひ過ぎた議論であると思ふ。恐くは某夫人自身も之を實行し

て居るのであるまいと思ふ。何となれば子供と云ふものはおもちゃを要求せずには居らぬものである。お雛様や鯉職は用ゐずとも人形の二つや二つはおちさんや、おばさんのお土産に貰はぬ子供はあるまいと思ふから何うしても子供が玩具を持たずに、暮すと云ふことは不可能であらうと思ふからである。

幼稚園問題につきて

藤田東洋

一、幼稚園に對する社會の評抑も世間一般に幼稚園教育の効果を全廢説や改良論をなして現在に於ける幼稚園教育を非難するの聲を耳にし無用の長物視せらるゝとは即ち社會の人々が幼稚園教育の何物たるを知らず只だ皮相觀的にして所謂一犬吠ゆれば萬犬相傳ふのではないか併し翻て實際に幼稚園教育が果して非難を受けざる様に主義方針を確立

し完全なる方法の下に保育せられつゝあるか否か社會の人々も決して根も葉も種もなき事を捉へて非難するものにあらざるなりと信ず之れを耳にしたるものは大に反省し其缺陷を見出し改良するの必要があることは論を俟たざる次第なり倍て吾人は保育につきて何等の経験なきのみならず薄學非才にして所謂局外の素人見なり故に幼稚園の保育上の諸點につきて一點何等批難するの資格なきものが此論を革するは甚だ潜越なる次第なり併し吾人が曾て小學校第一學年を擔任して幼稚園の保育を受けたるものと、然らざるものを調べ之れにつき聊か研究らしき事を行ひたることを見て兩者の差は著しからざるより幼稚園の効果につき疑ひを抱きたりしが先般京阪神聯合保育會は神戸市に於て開會せられ其際京都市よりの提出問題に「幼稚園より小學校へ入學したる兒童の成績如何」と云ふ問題ありたるを幸と思ひ、且兩三年前より吾人が屢耳に於る幼稚園の不振問題とか改良論等あり一面我京都市教育會雜誌に於て幼稚園問題の研究事

二、吾人の幼稚園に對する愚考の一、
 吾人は遠慮なく憶面なく皮想的に之れを論ずれば幼稚園の成績の顯はれると否とは其保育の任に當れる保姆其人にあること論を俟たず吾人は幼兒教育を彼是れ非難し罵倒する者にあらず幼稚園の施設なり其教育の方法に缺陷ある。幼兒を保育するに家庭的に行はふ勿論此以外の生活に向つて擴張せねばならん之れが爲めには其要求に應じて家庭以外の材料を遺憾なく採取し以て幼兒に提供する大務がある、之れもほんの責め塞ぎのではないが餘り是等に努力せられたるを認めないのである。

項の登載せらるゝを見ざるを以て吾人は犠牲の鬼となりて無鐵砲にも幼稚園保育者諸氏に對して失禮にも非難的論をなしたるは一は自己の素の感想を表して賢明なる諸氏の明正を仰ぎ且保姆諸君の益斯道の爲めに御盡瘁を乞ふ考と又世人の此非難攻撃を取消さしめ大に幼稚園の長を發揮したき考を以て京都市教育會議誌の餘白を借りて愚見を述べたりと言ふに外ならず。

三、某新聞の所論と吾人の愚考二、

フレイベル先生の自發活動主義云々と名乗りを
 擧げ其質自發活動たるもの、精神の有る所を汲
 みて之れが方針に向はば好果あらんも然らずで
 はないか吾人は此點を大に半信半疑の念を抱け
 る一人なり去月某新聞に登載せられたるが如く
 「……………現今の幼稚園は中流以上の家庭
 の兒童にあらざれば入園せざる有様にて（保育
 料の點か何か？）之れに伴ふ弊害は豫想外のも
 のあり例へば幼稚園兒童の多くは其家庭に於て
 も幼稚園に於ても我儘放題にして家人又は保母
 も常に其機嫌を取るにのみ腐心し殆んど何等の
 制裁を加へ得ざるが故に自然學校生活を蔑視し
 教員を自己の召使の如く考へ教員の命令に従は
 ざるのみならず此惡風は他の兒童に迄感染し是
 れが矯正に就き苦心少なからず時々叱責其他の
 制裁を加ふれば駄々泣き亂暴を逞ふして手もつ
 けられずされど此種の兒童は其多くは社會の地
 位名望ある家庭の子弟なれば教員も斷然たる處
 分を執り難く不得止機嫌を損せざるに努め不知

不識の間に我儘放縱の風を養成するの傾あるは
 痛心の事に屬す要するに今の幼稚園制度を外
 國の如く純粹の子守的制度とするか然らざれば小
 學校の連絡を取らざるに於ては其得べき利益よ
 りも蒙る弊害を寧ろ大なりと云々此評論は如
 何之れ現今に於ける社會の聲ならんやこれは甚
 だ酷なる評ならん此れを見て大に燃ゆるが如き
 憤怒の情起ること信す然れども吾人は思ふ此
 の如き幼稚園は極めて少數ならんと信す
 併し翻つて此自發活動の精神を知り、活動性好
 奇心、模倣性等を巧みに利用せば著しき効果も
 あらん吾人の見聞せる範圍内を言はば彼の新聞
 紙の論ずるが如き點も多少なきにしもあらずと
 思ふ。
 吾人の聞きをる「某幼稚園の主義を聞くに幼兒
 が如何なる惡事をなしたりとせんか如何なる場
 合如何なる時と雖罰したり叱責することなしと
 之れは果して効果あるべきや否兎に角一言とし
 て罰する目的、叱責的の言を發せずいつて聞かす
 と之れは別問題としても此反面には如何なる意

味のあるかを探らば新紙の看破の當れるやも知らず。

四、幼稚園は小學校的である、

吾人思ふ幼稚園へ入園して保育を受けたるものは家庭より直ちに格段の差別を生せねばならんや豫期したるものに拘はらず小學校初年級の教育の上及ぼす影響の著しからず即ち吾人の調査したる成績一覽表及其他の調査書も二三ありしが最早必要なきものとし、反古とせしを以て立派に言ふことを得ず只學科の成績の一端を別紙に表したる次第である。

五、幼稚園及家庭より入學せし兒童の取扱の一面、

幼稚園より入學し家庭より直に入學するの兩者は家庭的ならず守的である如くにして子守的ならず小學校の入學の準備かと言ふと然らず併し學校的であると言ふ事は言ひ得られる様なりそれは施行規則上、一面經濟、教育上、家庭の如く個人的に行はれずとは之れ一は我國幼稚園の制度の然らしむる所に依ることならん。

に對して直ちに學校的鑄型に入るべきものでない彼兒童は父母の膝下を離れ或は幼稚園保姆の手を離れて初めて小學校に入學した時は生活が俄に一變するから學校では務めて家庭の狀態に近き動作をとつた。

學童が家庭又は幼稚園等に居る時には大抵靜止して居るではない常に活動してをる。これを學校で始めから教室に入れて未だ身を託して見た事もない少々の自由は許すとしても身體なり精神なりに及ぼす變化は著しいものであらう。

之れ故に最初教室に狎れない間は教室へ入れた遊歩場や私は近隣の森やお社へ連れて行つてそして色々な話したり又させたり先づ一二週間を觀察とか整列することなど名を呼び返辭をさせることなど校内の狀況を知らしめ學校生活に漸次狎れしめんとした此様にして家庭にをつた時の狀態と餘り變らないから身體も精神にも急激な變化を與えることが無くて兒童が天然に保つてをる活動的の心性を傷けることはあるまい。

併しこれは批難の種ならんと思ひしも小學校と幼稚園とは違ふ幼稚園ならば子供を先づ遊ばすと言ふが目的であるが最早小學校に入學せし以上は只だ家庭や幼稚園の如く遊ばすのみではない必ず相當智徳を興へねばならないが道理なるも小學校の初期は幼稚園に似たるものである幼稚園でも遊ばすのみが目的でない。倍て先づ私は小學校入學者の教師として先づ其兒童の家庭境遇既往の教育等及び實際どんな身體でどんな天賦的の兒童で幼稚園保育を受けたるものと然らざるものとの區別をなして各個人を得る限りの調査を遂げたり之れによりて着々教授を進行したるに初めの程は如何に幼稚園の効果を喜び且つ憂ひつゝありしが後半期に至りて形勢一變幼稚園の保育を受けしものと普通の兒童と同一になりたるは如何、是等の點を腦裏より復起して紙上の餘白を借りて一言幼稚園の不振と思ひて一筆示したる迄に過ぎず。吾人が此粗漏なる調査と研究せし結果を皮想的に批評を下して幼稚園より入學したるもの、著

しき點を前半期に於て多少認むることを得たるも後半期より餘り其効果なきを論じたるに過ぎず一學年の教授の良否は兒童將來の教育に影響すること少なからず若し幼稚園に於ける教育が改良發達を計らるゝと共に小學校教育の準備教育とならば學校の教育は最よく行はれ種々なる弊害も除かるに至らん其他内容即保育事項の千偏一律的でなく時世の進運に伴ひ其幼兒の心意發達に適合するに勿論更に進んで地方的に化し興味ある材料を要す、時々自然現象自然物に接觸せしむること各幼兒の個性を観察之れに向つて雙方の研究をなし且最初に論せし保姆の資格と待遇(保姆修養)を改良する等多々あらんと信ず是等の問題に就きては京都府教育會雜誌(二百〇八號)九月分に登載せし次第なれば同誌につきて御一讀の榮を給ひ叱正を仰がば幸なり。

